

子どもと女性の健康相談室

84



福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター教授

横山 浩之氏

子どもの反抗には二つの種類があります。成長の道しるべとしての反抗と病的な反抗です。

成長の道しるべとして

の反抗は一次反抗期、二次反抗期と呼ばれたりもします。一次反抗期は5歳ごろに、簡単な理屈の言い方を覚えるために始まります。母親が電話をかけているときに子どもに呼びかけられれば、「電話かけてるから、ちょっと待って」と話すと思いません。これを聞いて、子

どもは、何かしているときに「待って」と言えることを学習するのです。そうすると「ごはんよ〜」

で「笑顔で」いい子は「すぐごはんだよね」のよう

に、やるべきことを示して、おだてて褒めてあげて、体つきが大人と

一方、病的な反抗は、全く異なる時期に、次第に誰に対しても反抗する形になっていきます。家庭内暴力や非行につながることも、よくあります。原因は多種多様で、本連載で書いてきた「早寝・早起き」や「メディアの問題」といった

成長の道しるべにも

と呼びかけられたときに、「いま遊んでるから、ちょっと待って」のように返事が返ってくるようになります。これが一次反抗期です。対策は容易

げれば、数カ月で一次反抗期は終わります。

同じになると、始まりま

生活習慣の問題でも起こってきますし、発達障害の対応の遅れや精神障害でも引き起こされます。

小学生のうちには、体験したことを元に考える力はありません。保護者や支援者が、子どもを言い諭すことは、反抗につながり

はありますが、言われたことを元に考える力はない

この時期の対応で大切な

問題の切り分けが必要になりますので、早めにかるべき方に相談することを勧めたいと思います。

子どもの反抗

ことは、反抗につながり

自律を促すことです。

|| 次回は4月24日掲載 ||